

Yamaichi Magazine vol,5

Theme :

企業のBCP対策について考える



Business Continuity Plan

こんなとき、どうしますか？

CASE 1

地震や大雨などによる被災で、従業員の安否確認に手間取り、一部の従業員が出社できず業務が滞ってしまった。災害復旧まで通常業務を行うことができず、該当期間分の損失が生じてしまった。



CASE 2

テレワークの社員が、カフェで無料の公衆Wi-Fiを使用。悪意ある第三者に情報を盗み見され、業務のやり取りや顧客の情報が流出してしまった。会社は、顧客からの信用を失い、損害賠償を求められるほか、複数の取引停止も発生してしまった。



未曾有の災害、あなたの会社は対策できていますか？

原因が何であるかにかかわらず、製造やサービスの提供ができなくなるような事態は、あなたの会社の**〈危機〉**となります。上記のケースや陥った場合、事業を継続するための方法がありますか？

地震、大雨などの災害が相次ぐ昨今。今年は新型コロナウイルスの感染拡大により、急遽テレワーク導入や感染対策など、その場その場での対策を余儀なくされた企業も多かったのではないのでしょうか。今後も、感染症に限らず、台風・地震といった自然災害に備えるため、企業に必要なBCP対策について、概要や策定のポイントも含めご紹介します。

必要な備えについて一緒に考えましょう！



BCPとは？

BCPとは事業継続計画（Business Continuity Plan）の頭文字を取った言葉で、企業が、自然災害・大火災・テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。



BCPとBCMの違い



BCPは事業継続の「計画」自体を指し、BCMはBCPを活用して、いかに企業内に浸透させていくか、戦略的に活用していくかという「マネジメント」全般を指します。効果的なBCPを策定しても、緊急事態に実用性があるものでなければ意味がありません。このように、実現可能なBCPを策定し円滑に運用することが、BCMにおいて重要となります。



BCPと防災の違い

BCP対策の中には防災が含まれていますが、BCP対策と防災対策では根本的に目的が異なります。各々の対策の目的・対象・適用範囲を以下にまとめました。

	防災対策	BCP対策
対策の目的	人命と企業財産を守る	災害拡大と伝染病・ケガなどの回避
対策の対象	緊急事態下の事業続行	業務停止する可能性があるものすべて
適用範囲	被害が想定される地域・設備	組織・製品・サービス等



なぜBCP対策が必要なのか？



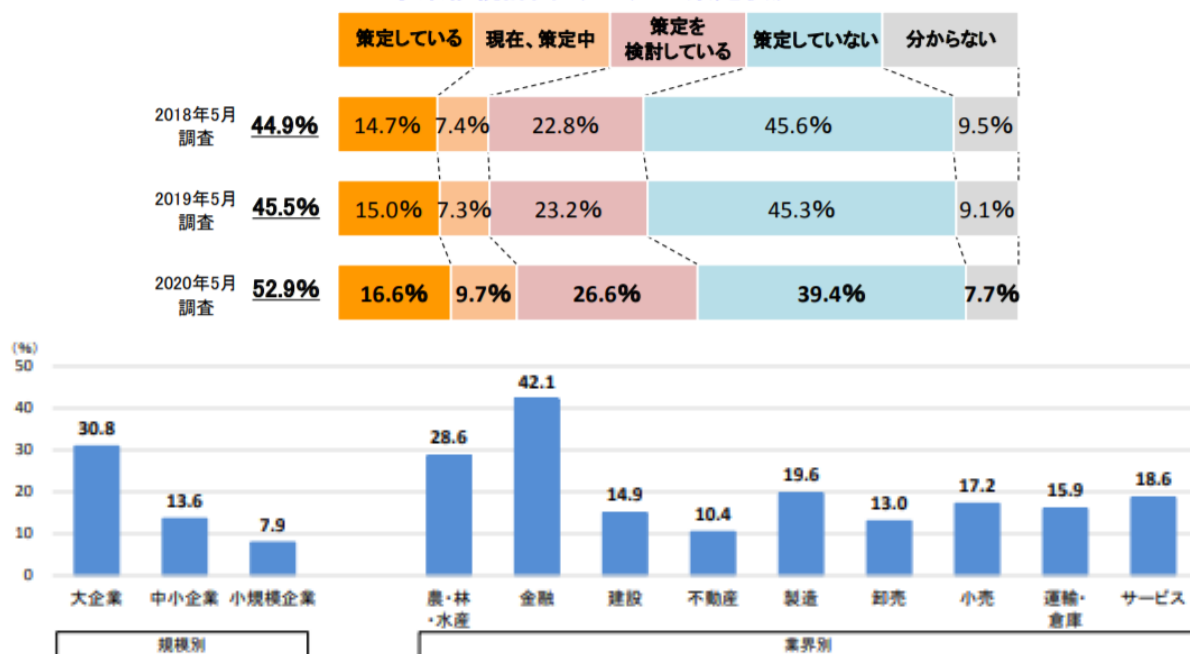
BCP対策は義務ではありません。しかし、全国各地で毎年のように地震や風水害が発生し、「災害大国」といわれる日本。自然災害以外にも火災・サイバー攻撃などの災害もあり、私たちは様々なリスクに囲まれているのです。被災によって操業停止が続くと倒産、廃業という最悪のケースも想定されます。有事が発生した場合に、企業を継続的に運営していくためにも、事前にBCP対策をしっかりと行い、備えることは非常に重要なのです。



BCP策定状況（2020年5月時点）

帝国データバンクの調査によると、「策定している」と回答した企業は16.6%で、前年調査から1.6ポイント増加し、また「現在、策定中」、「策定を検討している」もそれぞれ調査開始以降最も高く、BCPに対する意識は高まりを見せています。一方で、規模別で見ると大企業は30.8%、中小企業は13.6%となり企業規模で大きな差があるのが現状です。

事業継続計画（BCP）の策定状況



現場の声



重要性は理解できるけど、策定する人材と時間を確保できない。

策定に必要なスキル・ノウハウがない。





BCP策定の手順

1

策定の目的設定

経営理念や基本方針を振り返り、何を守るべきか目標を設定する。

2

重要な業務とリスクの洗い出し

最も優先すべき事業を洗い出し、想定されるリスクを具体的に書き出す。

3

リスクに優先順位をつける

リスクの発生頻度と重要度の2つの視点から順位をつける。

4

実現可能な具体策を決める

BCP発動時誰が指揮をとり、実際に行動するかの社内体制を明確にする。



策定がゴールではありません！

作成後も従業員の教育・訓練を行い、BCPの点検・見直しを継続的に進めていくことが重要です。

PDCAサイクルに従い実施しましょう



Action（課題の改善）

課題に対する対策検討
BCPの更新

Check（課題の識別）

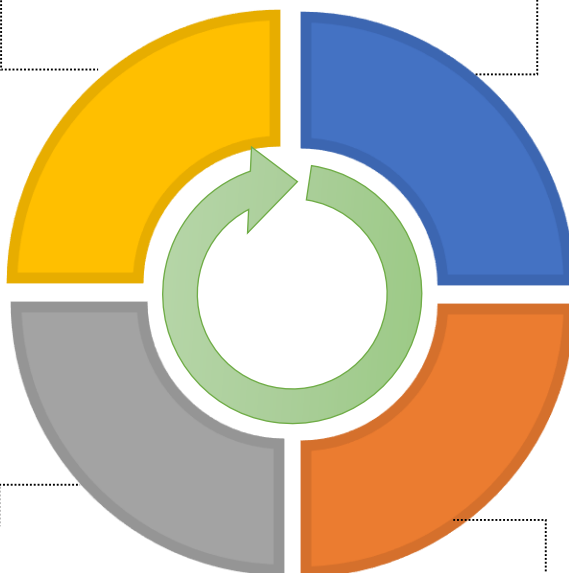
気づきや不明点をまとめ、課題を洗い出し、共有する

Plan（訓練の計画）

目的、ゴール、対象者、手法を計画書にまとめる

Do（訓練の実施）

計画書に基づき訓練実施
気づきや不明点を記録



BCPチェックリスト

BCPでチェックすべき点をカテゴリーごとに紹介していきます。
会社の現在の備えを確認し、設問ごとにチェックを入れてみてください。

人的資源に対する備え

- ☐ 従業員の安全や健康を確保する為の、適切な計画を立てていますか？
- ☐ 勤務時間外、時間内に緊急事態が発生した場合、従業員との連絡手段は確保できていますか？
- ☐ 出社が困難な従業員が出た場合、代行できる従業員はいますか？
- ☐ 定期的に避難訓練や応急救護法の訓練は行っていますか？



モノに対する備え

- ☐ 会社周辺の災害時の被害に関する危険性を把握できていますか？
- ☐ 事業に必要な設備について、リストで管理できていますか？
- ☐ 非常食や飲料水など、緊急時の備えはできていますか？
- ☐ 仕入れが必要な場合、資材の調達ルートは確保できていますか？



金銭に対する備え

- ☐ 一定期間、事業を中断した場合に発生する損失を理解できていますか？
- ☐ 災害用の保険に加入していますか？また、保険の範囲や支払い条件を理解していますか？
- ☐ 事前の災害対策や被災時復旧を目的とした融資制度を把握していますか？
- ☐ 一定期間、事業を中断しても、補填できるキャッシュフローを用意していますか？



情報に対する備え

- ☐ 情報のコピーまたはバックアップを定期的に取りっていますか？
- ☐ オフィス以外の場所に情報のコピーまたはバックアップを保管していますか？
- ☐ 顧客などの連絡先をリストで管理していますか？また連絡手段を確保していますか？
- ☐ 操業に必要なシステムが故障した場合の代替方法を用意していますか？



事業継続に対する備え

- ☐ 会社が自然災害や人的災害に遭遇した場合、事業活動がどうなるか考えたことがありますか？
- ☐ 緊急事態発生時、どの事業を優先的に継続・復旧すべきであり、その為には何をすべきかを考え、実際に何らかの対策を打っていますか？
- ☐ 社長が出張中であったり、負傷したりした場合代わりの者が指揮をとる体制は整っていますか？
- ☐ 取引先及び、同業者等と災害発生時の相互支援について取り決めていますか？



潜在するリスクに対する必要な備えとは

BCPで検討すべきことは、オフィスや工場・店舗などの場所の確保、取引先との連携、顧客へのフォローなど多岐に渡りますが、システムやツールが担う役割も大きくなります。以下、あらかじめできる施策をリスクごとに紹介します。

対策が必要なリスクと備え



感染症



1 テレワーク環境整備

必要な端末とコミュニケーションツールの導入を行いましょう。



2 電話回線の最適化

携帯電話の内線化で出社の有無によらず内線での連絡を可能に。

3 フリーアドレスの採用

感染防止の観点から座席の調整を行うことで適切な距離の調整を。



自然災害



1 安否確認システム

簡潔かつスムーズな安否確認ツールで迅速な事業の復旧を。

2 クラウドサービス活用

データ共有やWeb会議をクラウド活用することで業務継続が可能に。



3 リモートワーク導入

通信環境とスマートデバイスの確保で、場所を選ばず業務が可能に。



情報漏洩



1 端末の一元管理

ツール導入で手持ちのデバイスから業務システムにアクセス可能に。

2 ウイルス対策

公共Wi-Fiは情報流出の危険性が。VPN等の導入でリスク軽減を。

3 安全な回線の利用

社内ルールの徹底と適切なウイルス対策ソフト導入をしましょう。





ウィズコロナ／アフターコロナにおける 今後のBCP策定とは？



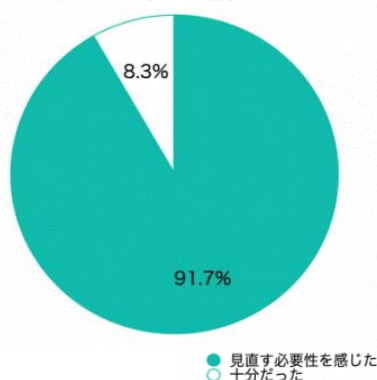
新型コロナウイルス感染症との闘いが長期化する中、今後の事業継続・拡大について頭を抱えている経営者は多いのではないのでしょうか？

実際にコロナ禍を経験し、企業のBCPに対する意識はどのように変わったのかをみていきましょう。

新型コロナウイルス感染拡大において、自社のBCP対策をどう評価するかという質問に対し、「見直す必要性を感じた」が91.7%（n=84）と、ほとんどの企業が自社のBCP対策について改善点を見出していることが分かりました。

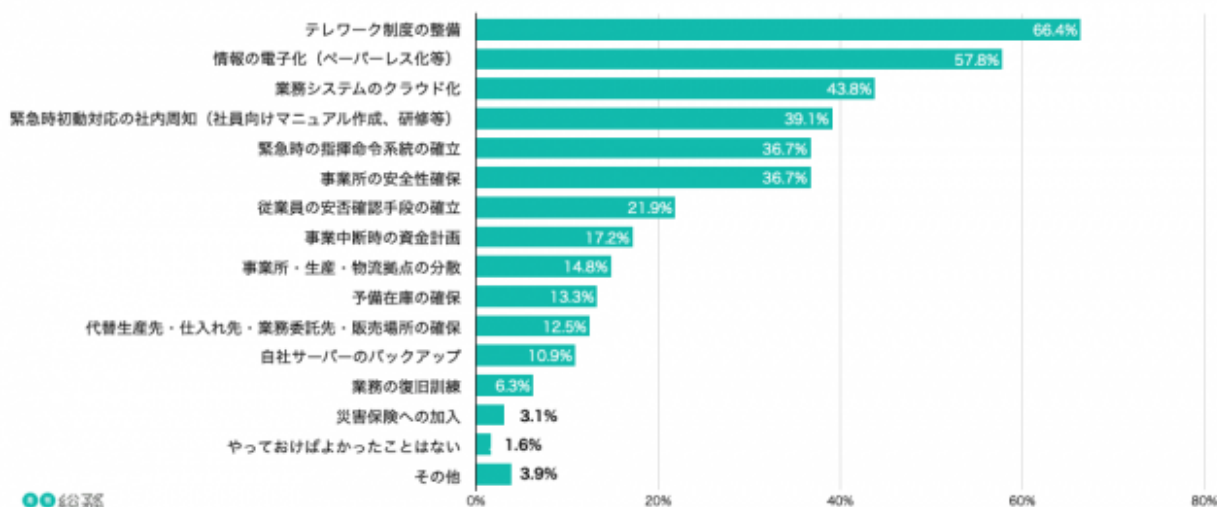


(BCP策定済みと回答した企業)
新型コロナウイルス感染拡大において、
自社のBCP対策をどう評価しますか



新型コロナウイルス感染症拡大においてやっておけばよかったと思うBCP対策について、「テレワーク制度の整備」が66.4%で最多、「情報の電子化（ペーパーレス化等）」が57.8%、「業務システムのクラウド化」が43.8%と続きました。（n=128）

(BCP未策定と回答した企業)
新型コロナウイルス感染症拡大において
やっておけばよかったと思うBCP対策はなんですか



従来のBCP



地震や洪水などの自然災害をベースとしたBCPがパンデミック発生時と異なるのが、被害を受ける地域が限定的であるという点です。被災した地域以外では事業を行うことが可能なので、他拠点での事業展開や、代替施設での操業で補完できます。その為、「事業をいかに早く復旧させるか」をBCPの第一目標として策定することが中心となります。

パンデミック時のBCP



パンデミックは突然発生するものではなく、事業に影響を及ぼすまでにある程度のリードタイムがあります。また、物理的な被害が生じることはありませんが、被害が世界など広域に及ぶこと、収束までの期間が読めないことが特徴です。自然災害をベースとしたBCPでは、「いかに早く復旧するか」に重点をおいて策定し、復旧資金への投資が主軸になるのに対して、パンデミックをベースとしたBCPでは、「事業の縮小・休止」をメインに策定し、それに耐えられる運転資金の確保が重要となります。

	自然災害を対象にしたBCP	パンデミックを対象にしたBCP
基本方針	事業継続・早期復旧	事業継続または事業縮小・休止
被害対象	主として施設・設備などの「物」	「人」
被害範囲	局所的	世界的
被害期間	短期的	長期的
被害制御	突発的であるため制御困難	海外から国内へと段階的に発生・進行

今回のコロナ禍のように、想定していなかったリスクが発生した場合でも、BCPは柔軟かつ有効に機能することが求められ、企業においては、従来のBCPを見直し、さまざまなリスクに包括的に対応できる「オールハザード型」へ転換していく必要性が高まっています。

パンデミック時のBCP 策定ポイントとは



事業の選定

継続する事業や、縮小する事業を選定することが重要です。中核事業を定めた上で、感染症発生時にどの事業をどのレベルで継続させていくのかを決めておく必要があります。この時、段階別にレベルを設定していくことがポイントです。

人員確保

建物や設備に被害がなく、ライフラインも大きく損なわれる可能性の低い感染症拡大では、事業継続の為の対策として人員確保が重要です。在宅勤務の導入や、一人の従業員が複数の業務をこなせるように教育するクロストレーニングも有効です。

運転資金確保

長期間の事業停止や縮小を想定して、従業員の給与やオフィスの賃借料などの固定費を概算し、最低でも2ヶ月程度の事業停止を想定した資金を確保しておきましょう。

環境整備

少ない人員で事業を継続させるための勤務体制の構築やテレワーク環境の整備・システム導入などを事前に行っておくことが緊急事態モードへのスムーズな移行に繋がります。

情報収集や感染防止策も徹底しよう！

発生の予測や、過去の事例からの被害予想が難しい感染症。予期せぬ事態を想定したBCP策定と同時に、感染症に関する正しい情報を知っておくことも重要です。また、自社の事業内容に応じた感染予防対策も欠かせません。日頃から、来訪者管理やテレワーク体制の確保やリモート会議の実施、消毒用アルコール製剤やマスクの確保などの準備をしておきましょう。体制の整備には時間や費用もかかりますが、会社や社員を危機から守るために対策を進めることが大切です。





箸休め

新年あけましておめでとうございます。販売推進室の晒（サラシ）です！今年もマガジンを読んでいただいている皆様に、少しでもお役に立てるような情報を発信していきたいと思っております！引き続き、宜しくお願い致します☺
では、今回も私のオススメ店を紹介します！

鮨 なかもと



とろたく巻

安くて、美味しいお寿司が食べられるお店です☆
握り1巻150円～！お任せ5種はなんと1200円！
お寿司以外の料理も充実してます(´▽｀)
コの字型のカウンター席とテーブル個室があります。内装もオシャレですよ～☺
人気店なので予約をおすすめします！



車海老



中トロ



うなぎ



店舗情報

住所 : 大阪府中央区難波千日前4-35
営業時間 : 17:00-24:00
定休日 : 火曜日

新型コロナウイルス感染拡大により、
営業時間・定休日が記載と異なる場合があります。



